

小学5年2組 国語科学習指導案

指導者 金 坂 唯

【本時で目指す子どもの姿】

文章構成や何度も出てくる言葉に着目し、16段落の比喩表現を本文中の言葉を使って具体的に言い換えようとする姿

【具体的な手立て】

比喩表現の主語や、文章構成よりメディアについて詳しく説明されている段落やまとめの役割をしている段落に着目させることで、本文中の言葉に言い換える際の視点を与える。

1 単元名 手がかりを見つけて、要旨を読みとろう—想像力のスイッチを入れよう—

2 単元のねらい

題名や文章構成、比喩表現に着目させて要旨を読みとることができる。

3 授業の構想

(1) 子どものとらえについて

1 学期の国語科の学習を振り返った時に以下のものが出た。

【説明文の学習について】

- ・私が一番心に残っていることは、「見立てる」の学習です。構成を考えたり、最後に要旨をまとめるのが少しむずかしかったけど、必要な言葉を入れて決まった字数におさまるようにがんばりました。
(児童A)
- ・「見立てる」と「生き物は円柱形」で、ちゅう象か具体かを見分けることはむずかしかったです。筆者の伝えたいことをまとめることは自分の中でも上手くできた方だったので楽しかったしうれしかったです。また、やりたいです。
(児童B)

説明文の学習では「筆者が伝えたいことはどこに書いてあって、どんなことなんだろう」と課題を設定して段落ごとに読み進めていった。筆者が伝えたいことを探すための方法として、それぞれの段落には抽象的なことと具体的なことのどちらが書かれているのか話し合った。「生き物は円柱形」では、「ミミズやマグロみたいにチョウや木の葉が出てきて、詳しい生き物が使われているから『具体』だよ。」「生き物って大きな仲間の中にチョウや木の葉があるから『抽象』なんじゃないの。」など意見が分かれた。子ども一人ひとりの「生き物」の概念が異なっている中で、「詳しい生き物の名前が書いてある時は具体で、まとめている言葉が使われるときは抽象。」と子どもたちは本文中の言葉から具体か抽象かを見分ける手がかりを見つけていた。そして、筆者が自分の考えを主張する時にはまとめている言葉が使われていることに気づき、十一段落を考えの中心において要旨をまとめた。

筆者の主張が書かれている段落を探すときに、入学してから尾括型の説明文と多く出会っている経験から、「おわり」のまとまりの中から探そうとする姿があった。本単元でも要旨を読みとるために「おわり」のまとまりや最終段落に着目することが予想できる。また、「五段落は四段落の答えが書いてある。」や、「十段落は七・八・九段落のまとめなんじゃないの。」など話し合いの中心となる段落の前後のつながりを意識している発言もあった。課題と向き合った時に本文中の言葉や段落どうしのつながりに着目する姿は今後も大事にしていきたい。

そこで、本文に何度も出てくる言葉や、段落どうしのつながり、比喩表現などを手がかりに要旨を読みとろうとする姿を期待したい。

(2) 本単元について

本単元では題名や文章構成、比喩表現に着目し要旨を読みとることを目指している。そのため、題名にある「想像力のスイッチ」とはどのようなものでいくつあるものなのか本文中の具体例から読みとらせたり、段落どうしのつながりを意識して文章構成を捉えさせ、比喩表現を本文中の具体的な言葉に置きかえさせたりする。また、子どもの「分からないからもっと読みたい」、「筆者の考えが知りたい」という思いをふくらませた上で単元を貫いた「筆者の伝えたいことは何だろう」という問いを設定することで、本学校園における思考の必要性を子どもが感じることができるのではないかと考えている。

手がかり①：題名

題名にある「想像力のスイッチを入れる」という言葉が何を意味するのか本文中の具体例から考えることが筆者の伝えたいことを読みとることにつながると考えている。「想像力のスイッチ」を具体的に読み進めるにあたって、「いくつあって、どの段落を読めば良いのか」と視点を持たせ、具体例が書かれている段落から「想像力のスイッチ」の捉えを学級で共有したい。また、題名から「想像力のスイッチを入れないとどうなると筆者は捉えているか」と揺さぶりをかけたい。「想像力のスイッチを入れる」ことの必要性を考えさせることで、文章全体を読み返すことにつながってくると考える。

手がかり②：文章構成

要旨をよみとる上で文章構成に着目することは内容理解と同じくらい大切である。そこで、順序を表す接続詞や比喩表現から段落どうしのつながりに着目させながら文章構成をまとめさせたい。視覚的に段落どうしのつながりを捉えられるようにすることで、本時での比喩表現を別の言葉に置き換える際に手がかりとなる段落はどこか子どもが自分で探すことができると考えている。

手がかり③：比喩表現

説明的文章において、筆者の主張が比喩表現を用いて抽象的に書かれていることがある。本教材文においても、**16**段落は「あたえられた小さいまど」や「かべを破る」などほぼ比喩表現で書かれている。題名にある「想像力のスイッチ」について読み進めてきた経験から、**16**段落の比喩表現についても子どもは本文中の言葉で言い換えようとするのが考えられる。主に**4**・**6**・**15**段落を手がかりにしていきたい。

4 展開計画（全9時間 本時8／9）

次	時	○主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿
1	1	○「想像力のスイッチを入れよう」を読んで筆者が伝えたいことは何か話し合い、単元を貫く問いをもつ。	◇「筆者が伝えたいことは何か」という視点をもって本文を読んでいる。
2	2	○「想像力のスイッチを入れよう」を読む。 ・どの段落に着目すると「想像力のスイッチ」とはいくつあって、どのようなものなのかが分かるのか話し合う。	◇「想像力のスイッチ」とはどんなものでいくつあるのか探すために、本文を何度も読んでいる。
	3～6	・「想像力のスイッチを入れる」こととは具体的にはどのようなことか、本文中の言葉に置きかえる。	◇ 7 ～ 14 段落から、「想像力のスイッチ」を具体的な言葉で表している。
	7	・段落どうしのつながりに着目して文章構成を捉える。	◇段落どうしをまとめたり、前後の段落を意識したりしながら形式段落に小見出しをつけている。
	⑧	・ 16 段落に着目し、比喩表現を具体的な言葉に言いかえる。	◇文章構成や比喩表現の主語に着目して 16 段落の比喩表現を具体的な言葉に言い換えようとしている。
	9	・筆者の伝えたいことを文章で表し、互いに読み合う。	◇題名や比喩表現を具体的な言葉に言い換えながら要旨をまとめようとしている。

5 本時の学習

(1) ねらい

文章構成や何度も出てくる言葉に着目し、**16**段落の比喻表現を本文中の言葉を使って具体的に言い換えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 筆者の伝えたいことは主にどの段落に書かれているのか確認し、16段落の扱いについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり16段落をそのまま抜き出せばいい。 ・15段落に書いてあることを16段落に足せばいい。 ・「想像力のスイッチ」みたいに別の言葉に言い換えてみたらいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返ることで、「筆者の伝えたいことは何だろう」という単元を貫く問いを再認識させたい。 ・16段落をそのまま抜き出すだけでは、筆者の伝えたいことが分かりにくいことに気付かせるために、「あたえられた小さなまど」とは何か揺さぶりをかける。
<p>16段落で筆者が伝えようとしていることを考えよう。</p>	
<p>2. 16段落の比喻表現を、本文中のどの言葉で言い換えたら良いのか話し合う。</p> <p>【16段落にある比喻表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたえられた小さなまど ・小さい景色 ・かべをやぶり ・大きな景色 <p>【手がかりになる段落】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアが情報を早く分かりやすく伝えるために大事だとしている部分を切り取っていることが書かれている段落 (4, 15段落) ・切り取られた情報をそのまま受け入れることによって起こり得る思いこみについて書かれた段落 (5, 6段落) 	<ul style="list-style-type: none"> ・比喻表現を別の言葉に言い換えることの具体的なイメージをもつために、「想像力のスイッチを入れる」ことがどのようなことであるか読み進めた時の学習を想起させる。 ・『『小さなまど』を与えたのは何か』と問うことで比喻表現の主語に着目させる。 ・「小さい景色」と「大きな景色」の対応に気付く発言があれば取り上げ、「小さい景色」が「大きな景色」になるために必要なことはどのようなことか問うことで読む際の視点を与える。 ・比喻表現についての認識を共有するために、個で読みとったことを小グループ及び全体で話し合う時間を設定する。
<p>3. 16段落で筆者が伝えようとしていることは何か自分の考えをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「与えられた情報を事実の全てと受け止めるのではなく、冷静に見直したり切り取られた周りの部分に着目して想像することが大切である。」と筆者は伝えたいんだと思いました。 ・筆者のたとえを別の言葉に言い換えたり、キーワードや6段落の文章を使ったりすると、筆者の伝えたいことに気をつけて要旨をまとめることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの読みをふりかえることができるように、本時の学習を振り返って改めて16段落で筆者が伝えようとしていることについてまとめる時間を設定する。 ・早く終わった子には、筆者の伝えたいことを考える際にどんなことを手がかりにしたのかも書くように声がけをし、読みとる方法が共有できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価の観点（読むこと） 比喻表現を本文中の具体的な言葉にかえ、16段落で筆者が伝えようとしていることをまとめることができる。 【評価方法 発言，ノート，ふりかえり】</p> </div>